

二里地区

39. 取り追う祭

大里地区の神之原八幡宮で12月の最初の卯の日の前夜に行なわれます。会所で833個の御供さんというお供えのにぎり飯をつくり、ショーケという籠に入れて祭場に運びます。祭場では攻め手が「打一ちやえんかー」と叫んで御供さんが入った籠を奪い蓋をあけようとします。3本の大松明と30本の小松明を持った護り手が「押一しゃえんかー」と叫びながら、松明の火の粉を浴びせます。ひとしきり松明合戦のあと、籠の奪い合いがあり、攻め手が籠の蓋をあけます。中の御供さんが氏子や見物者に配られてまつりは終わります。南朝方の菊池武重が足利方に敗れてこの地で神官になり、再起を期して火中訓練をしたのが始まりと言われてますが、御供さんを配って豊作に感謝する収穫祭と思われます。

